

令和 7 年度

シラバス (専門教科)

～農林技術科 1 年～



鹿児島県立伊佐農林高等学校

農林技術科 1 年 専門教科

農業と環境

栽培・環境分野・・・・・・・・・・ P 1

飼育・環境分野・・・・・・・・・・ P 3

総合実習・・・・・・・・・・ P 6

農業と情報・・・・・・・・・・ P 8

(新課程用)

農業と環境 (栽培・環境分野)	単位数	4単位
	学科・学年	農林技術科・第1学年

1 学習到達目標等

学習の到達目標	1 農業生物の育成についての体験的,探求的な学習を通じて農業に関する基礎的知識と技術を習得させる。 2 農業と環境の学習について興味関心を高めるとともに科学的思考力と問題解決力を伸ばし,農業の各分野の発展を図る能力と態度を育てる。
使用教科書・副教材等	農業と環境 (実教出版)

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

学期	単 元 名 学 習 内 容	月	学 習 の ね ら い 評 価 規 準	備 考 (学習活動の特記事項 他)	考 査	
一 学 期	第 1 章 農 業 と 環 境 ・ プロジェクト学習	4	・ 農 業 と 環 境 の 学 習 内 容 を 紹 介 し , 興 味 関 心 を 高 め る 。	・ 生 命 を 扱 う こ と の 大 切 さ を 知 る た め に ,	中 間 考 査 期 末 考 査	
	第 6 章 学 校 農 業 ク ラ ブ		・ 農 業 ク ラ ブ 活 動 を 理 解 す る 。	・ 栽 培 過 程 で 起 こ 様 々 な 現 象 の 原 因 と 結 果		
	第 2 章 私 だ ち の 暮 ら し と 農 業 ・ 農 村	5	・ 農 業 ・ 農 村 の 役 割 と 環 境 と の 関 わ り を 理 解 す る 。	・ 地 域 の 農 業 を 知 る た め , 環 境 に つ い て		
	第 4 章 栽 培 と 飼 育 の プ ロ ジ ェ ク ト	6	・ 春 作 野 菜 を 種 ま き か ら 収 穫 , そ の 後 の 利 用 ま で 一 貫 し た 学 習 に よ り , 栽 培 の 基 本 的 な 栽 培 知 識 , 技 術 を 身 に	・ ト ウ モ ロ コ シ ・ な ど の 栽 培 ・ 管 理 を 行 い ま す 。		
	・ トウモロコシ (穀実類) ・ トマト (果菜類) ・ ピーマン (果菜類)	7	さ ら に プ ロ ジ ェ ク ト 学 習 法 に つ い て の 活 動 を 行 う 。			
【課題・提出物等】 1 授業中に使用するプリント, ノートを各段階で提出します。 2 実験・実習についてはレポートを作成し, 自己評価を行い, 提出します。						
【第1学期の評価方法】 ※学習内容に応じて, それぞれの観点を適切に配分し評価する。学期末において, 観点ごとの総括的評価を行う。						
二 学 期	第 3 章 栽 培 と 飼 育 の 基 礎	9	・ 作 物 の 特 性 や し く み , 栽 培 と 環 境 の 関 わ り を 理 解 す る 。	・ 作 物 に 関 す る 環 境 に つ い て 調 査 し ま す 。	中 間 考 査 期 末 考 査	
	第 4 章 栽 培 と 飼 育 の プ ロ ジ ェ ク ト	10	・ 秋 作 野 菜 と 草 花 を 通 じ て 季 節 ご と の 栽 培 知 識 , 技 術 を 習 得 さ せ る 。	・ 春 作 で の 経 験 を ふ ま え て , そ れ ぞ れ 秋 作 の 栽 培 計 画 を 立 て ま す 。		
	・ ハクサイ (葉茎菜類) ・ ダイコン (根菜類) ・ キャベツ (葉茎菜類) ・ ネギ (葉茎菜類)	11	・ 市 場 や 文 化 祭 等 を 通 じ て 収 穫 後 の 調 整 → 出 荷 → 販 売 に 至 る ま で の 仕 組 み を 理 解 さ せ る 。 ・ 収 穫 物 の 利 用 法 や 花 壇 等 の 管 理 方 法 を 知 り , 適 切 に で き る 。	・ 野 菜 の 栽 培 ・ 管 理 を 行 い ま す 。 ・ 生 産 の 場 だ け で な く 販 売 や さ ら な る 付 加 価 値 を つ け た 利 用 方 法 を 考 え , 現 場 に 立 っ て 経 験 し ま す 。		
	・ コナラ (クヌギ)	12	・ 地 域 の 代 表 作 物 の 深 ネ ギ 栽 培 を 導 入 し て , 地 域 農 業 に 関 心 を 持 た せ る 。 ・ 利 用 部 位 に よ る 分 類 さ れ た 野 菜 ご と の 栽 培 方 法 の 違 い を 知 る 。 ・ 栽 培 (ド ン グ リ と 萌 芽 更 新) ・ シ イ タ ケ 原 木 採 取 と 菌 打 ち 体 験 ・ 木 炭 製 造 (黒 炭 製 炭 法)	・ 代 表 的 な 広 葉 樹 の 特 徴 と 利 用 に つ い て 体 験 学 習 を 行 い ま す 。		
	【課題・提出物等】 1 授業中に使用するプリント, ノートを各段階で提出します。 2 実験・実習についてはレポートを作成し, 自己評価を行い, 提出します。					
【2学期の評価方法】 ※学習内容に応じて, それぞれの観点を適切に配分し評価する。学期末において, 観点ごとの総括的評価を行う。						
三 学 期	第 2 章 私 だ ち の 暮 ら し と 農 業 ・ 農 村 ・ プロジェクト学習のまとめ	1	・ 観 察 記 録 簿 を も と に パ ソ コ ン に よ る プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン の ね ら い を 理 解 さ せ る 。 ・ 栽 培 環 境 が 作 物 に 与 え る 影 響 に つ	・ そ れ ぞ れ の プ ロ ジ エ ク ト 学 習 を ま と め , 発 表 し , そ れ に 対 し て お 互 い に 評 価 ・ 考		

期	・作物栽培と環境 第5章 環境調査と環境保全 ・環境調査の方法 ・植生，生物，土壌，水質の調査 第6章 学習のまとめと学校農業クラブ活動	2	いて考えさせる。 ・地域の農業と自然環境の関係を理解させる。 ・植生や生物などの環境調査の方法を学び，研究する。 ・まとめとして，農業クラブ活動やプロジェクト学習を理解する。	察を行います。 ・学習したことをもとに、地域農業や栽培に関する環境から，これからの専門分野での活用を考えます。	学年末 考查	
	【課題・提出物等】 1 授業中に使用するプリント，ノートを各段階で提出します。 2 実験・実習についてはレポートを作成し，自己評価を行い，提出します。					
	【三学期の評価方法】 ※学習内容に応じて，それぞれの観点に適切に配分し評価する。学期末において，観点ごとの総括的評価を行う。					
	【年間の学習状況からの評価方法】 ※各学期末における観点別評価を基に，それを総合して学年末に5段階の評定にまとめる。					

評価の観点及び内容		評価方法
知識・技能	・農業と環境に関する基礎的な知識を習得し、それぞれの農業生産物の特性とそれを取り巻く栽培・飼育環境との関係を理解しているか。 ・農業と環境に関する基礎的な技術を習得させ、プロジェクト学習の中で適切に生かすことができるか。	・定期考査 ・発言 ・観察記録簿の記入 ・行動観察 ・実技
思考・判断・表現	・農業について科学的な思考と問題解決能力を身に付け、日々の観察記録簿や資料等を使って調査したことの中から分析し、考察する。環境調査を行い、栽培・飼育上の課題を合理的に判断、日々の観察記録簿の中でのスケッチを利用した観察や考察が正しく表現することができるか。	・観察記録簿の記入 ・定期考査 ・発言 ・行動観察 ・プロジェクト発表
主体的に学習に取り組む態度	・農業と環境についての興味・関心を持ち、プロジェクト学習に主体的に取り組み、課題解決に向けて積極的活科学的に取り組もうとする実践的な態度を身に付けているか。	・行動観察 ・観察記録簿の記入 ・発言 ・定期考査

【観点別学習状況の評価】

「十分満足できる」状況と判断されるもの……………A

「おおむね満足できる」状況と判断されるもの………B

「努力を要する」状況と判断されるもの……………C

確かな学力を身に付けるためのアドバイス	(1) 科書を読むなどして予習をしましょう。 (2) 授業時間内の指導者の指示をよく聞き、指示された内容に集中して取り組む姿勢を持ちましょう。 (3) 地域の農業の状況も観察し、学校農場の栽培状況と比較し、異なる点については調べてみましょう。
授業を受けるに当たって守ってほしい事項	(1) 座学においては、教科書・ノート・プリント綴り、実習においては、実習服など学習に必要な道具の準備を忘れないこと。 (2) 授業中の指導者の指示に従うこと。特に、実習においては注意されたことを守ること。
その他	(1) 畑等での調査・観察、スケッチ、教室での講義、レポート作成、グラフ作成など様々な形態の学習をするものを忘れないことが大切です。 (2) 指示をよく聞いて、提出物は必ず出しましょう。また、学習道具や実習服などの学習に向けての準備するものを忘れないことが大切です。

(新課程用)

農業と環境 (飼育・環境分野)	単位数	4単位
	学科・学年	農林技術科・第1学年

1 学習到達目標等

学習の到達目標	1. 家畜動物の育成について体験的・探求的な学習を通して、農業や飼育環境に関する基礎的な知識と技術を身につけます。 2. 繁殖・育成・肥育・出荷と実習を行い、農業・農村、環境学習に対しての興味・関心を高めます。 3. 1と2の学習成果に立って、科学的な思考力と問題解決能力を伸ばし、農業と環境の各分野の発展を図る能力を身に付けます。
使用教科書・副教材等	農業と環境（実教出版）

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

学期	単元名 学 習 内 容	月	学 習 の ね ら い 評 価 規 準	備 考 (学習活動の特記事項他)	考 査
一 学 期	・「農業と環境」の学習について 第1章 農業と環境を学ぶ ・プロジェクト学習とその発展 ・学校農業クラブ活動 第3章 栽培と飼育の基礎 ・家畜の特性と飼育 ・飼育学習の基礎 ・家畜の成長、繁殖、飼料 ・飼育環境の管理と整備 第4章 ・ニワトリの飼育と利用 ・ニワトリの特徴 ・ニワトリの一生と飼育計画 ・ニワトリの形態 ・プロジェクト学習の実践 ふ化と育すう	4	・私たちと共に暮らす動物たちとの関わりを理解します。 ・学校農業クラブとプロジェクトの進め方について理解します。	・農場配置と実習の基本的態度及び評価について説明します。 ・学校で飼育されている家畜の品種をおぼえます。 ・有精卵のふ化を学びます。（採卵鶏） ・ひなの管理を学びます。 ・用具や器具の使用と実習中の危険防止について学びます。 ・大びなの管理	中間 考 査

3 担当者からのメッセージ

確かな学力を身に付けるためのアドバイス	(1) 教科書を読むなどし、予習・復習をしましょう。 (2) 授業担当者の指示をよく聞き、指示された内容に集中して取り組む姿勢を持ちましょう。 (3) 地域の農業の状況を観察し、学校農場と比較し、異なる点については調べてみましょう。 (4) 授業や実習中に疑問に思ったことがあれば積極的に質問しましょう。 (5) 興味・関心を持つことが大切です。自分たちが日頃、口にしている食材について関心を持ちましょう。
授業を受けるに当たって守ってほしい事項	教科書とノートを忘れずに準備しましょう。また、実習を伴うため、実習着などの忘れ物がないよう事前準備に気を配りましょう。授業中は私語を慎み先生の指示にしっかりと従いましょう。レポートやノートなどの提出物は期限を守ってしっかりと整理し提出しましょう。
その他	(1) 畜舎等での調査・観察，記録，教室での講義，レポート作成，グラフ作成など様々な形態の学習をします。教材・教具を忘れないことが大切です。事前に連絡をとりましょう。 (2) 実習では，危険を伴う場合があります。指示をよく聞いて理解し，実習に取り組みましょう。

(新課程用)

総合実習 (部門別ローテーション)	単位数	3単位
	学科・学年	農林技術科・第1学年

1 学習到達目標等

学習の到達目標	(1)体験的な学習を通して、総合的な知識と技術を習得します。 (2)専攻においての内容理解を深め、基礎的専門分野の知識や実技など実践的な能力と態度を育てます。
使用教科書・副教材等	実験実習ノート

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

学 期	単 元 名 学 習 内 容	月	学 習 の ね ら い 評 価 規 準	備 考 (学習活動の特記事項 他)	考 査
一 学 期	(1) 時間内総合実習 ・ 大家畜→林業→食品加工→地域資源活用のローテーション	4	・ 農林業の各分野の基本的な作業管理・技術を学び、専門的知識・技術を学びます。 ・ 農林館販売を通して生産物評価について学び、販促技術の向上や地域交流で社会性・指導性を身に付けます。 ・ 農業クラブ各種競技の校内選考を通して、意欲向上と農業に関する知識を深めます。	・ レポートの書き方と整理法について学びます。 ・ 実技テストの実施について学びます。 ・ 各種競技会へ参加する態度を養います。 ・ 生産物の販売を行い、接客などを学びます。	
	(2) 時間外総合実習 専攻別での学習	5			
	・ 大家畜 ・ 中小家畜	6			
	・ 園芸 ・ 林業	7			
	・ 食品加工				
【課題・提出物等】 ・ 毎回の総合実習のレポート提出 ・ 意見発表原稿提出					
【第1学期の評価方法】 ・ 出席点 ・ 毎回の実習態度 ・ 毎回のレポート提出 ・ 校内農業鑑定競技 ・ 意見発表への積極的参加と結果 ※学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し評価する。学期末において、観点ごとの総括的評価を行う。					
二 学 期	(1) 時間内総合実習 ・ 大家畜→林業→食品加工→地域資源活用のローテーション	9	・ 農林業の各分野の基本的な作業管理・技術を学び、専門的知識・技術を学びます。 ・ 産業現場での総合的な実習を通して、農業生産工程管理やマーケティング、労働管理の手法等を学びます。	・ 各種競技へ参加する態度を養います。 ・ 生産物の販売を行い、接客などを学びます。	
	(2) 時間外総合実習 専攻別での学習	10			
	・ 大家畜 ・ 中小家畜	11			
	・ 園芸・林業・食品加工	12			
【課題・提出物等】 毎回の総合実習のレポート提出					
【2学期の評価方法】 ・ 出席点 ・ 毎回の実習態度 ・ 毎回のレポート提出 ※学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し評価する。学期末において、観点ごとの総括的評価を行う。					
三 学 期	(1) 時間内総合実習 ・ 大家畜→林業→食品加工→地域資源活用のローテーション	1	・ 農林業の各分野の基本的な作業管理・技術を学び、専門的知識・技術を学びます。 ・ 自主的、主体的な活動を通し	・ 2年生への専攻を決めるための最終の学習になります。 ・ 生産物の販売を行い、	
		2			

期	(2) 時間外総合実習 専攻別での学習 ・大家畜 ・中小家畜 ・園芸 ・林業 ・食品加工	3	て、活動過程のデータや結果の記録を分析して考察、検証する力を身に付けます。	接客などを学びます。
	【課題・提出物等】 毎回の総合実習のレポート提出			
	【3学期の評価方法】 ・出席点 ・毎回の実習態度 ・毎回のレポート提出 ※学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し評価する。学期末において、観点ごとの総括的評価を行う。			
	【年間の学習状況からの評価方法】 ※各学期末における観点別評価を基に、それを総合して学年末に5段階の評定にまとめる。			

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

学習状況を、「知識・技術」、「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。

評価の観点及び内容		評価方法
知識・技能	・各専攻に関する基礎的な知識と技術を身につけ、特性と社会環境の関係や育成の過程等を理解しているか。	日本農業技術検定 レポート
思考・判断・表現	・管理の記録を分析するなど課題を多面的に考察しているか。 ・見出した課題を科学的にとらえて合理的に解決する実践的な能力を身につけているか。	レポート 意見発表
主体的に学習に取り組む態度	・各専攻学習に興味・関心を高めているか。 ・各専攻に関するプロジェクトを主体的に行うなど課題の探求に意欲的に取り組むとともに、その課題を科学的にとらえて合理的に解決しようとする実践的な態度を身につけているか。	プロジェクト発表 農業鑑定競技 レポート
【観点別学習状況の評価】 「十分満足できる」状況と判断されるもの……………A 「おおむね満足できる」状況と判断されるもの………B 「努力を要する」状況と判断されるもの……………C		

3 担当者からのメッセージ

確かな学力を身に付けるためのアドバイス	・農業技術検定を繰り返し勉強し、合格の目標を持って真剣に取り組んでください。 ・授業で学んだ事をレポートに書きとめ、積極的に質問して下さい。
授業を受けるに当たって守ってほしい事項	・授業はチャイムと同時に始めますので、時間厳守で集合して下さい。 ・実験・実習の際は道具などの取り扱いには万全の注意をして下さい。 ・授業の最後は後片付けをしっかりとして下さい。 ・校外での実習等ではマナーをしっかりと守って下さい。
その他	・総合実習を通して、基本的な知識の習得から専門的な知識の理解を深めましょう。 ・農家や企業などの訪問を通して、地域との関わりを深め、地域農業を活性化しましょう。 ・プロジェクト発表や農業鑑定競技等の各種競技大会に積極的に参加し、自らの力を発揮しましょう。

(新課程用)

農業と情報	単 位 数	3 単位
	学科・学年	農林技術科・第 1 学年

1 学習到達目標等

学習の到達目標	(1) 情報及び情報技術を活用するための知識と技能の習得を通して、情報に関する科学的な見方や考え方を養います。 (2) 社会の中で情報及び情報技術が果たしている役割や影響を理解させ、情報化の進展に主体的に対応できる能力と態度を身につけます。
使用教科書・副教材等	教科書：実教出版「農業と情報」 副教材：ビジネス文書実務検定模擬試験問題集（3 級）

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

学期	単 元 名 学 習 内 容	月	学 習 の ね ら い 評 価 規 準	備 考 (学習活動の特記事項 他)	考 査
一 学 期	1 生活と農業の情報化 ア 生活と情報 イ モラルとセキュリティ ウ 農業を支える情報	4	・ ネットワーク社会について理解します。 ・ 情報の種類とその表現方法を理解します。 ・ 情報通信ネットワークの概要，種類と特徴を理解します。 ・ コンピュータの利用について理解します ・ 日本語ワードプロセッサの特徴と機能を理解します。 ・ 日本語ワードプロセッサの操作方法を身につけます。	全商ビジネス文書 実務検定(3 級)	中 間 考 査 期 末 考 査
	2 情報の基礎 ア コンピュータのしくみと利用 イ ネットワーク	5			
		6			
	3 コンピュータによる情報の活用	7			
【課題・提出物等】 配布プリント，実技の印刷物，ノート					
【第1学期の評価方法】 1 毎時間の学習時間への取り組む態度や課題の提出状況と定期考査等の成績や小テストなどで評価します。 ※学習内容に応じて，それぞれの観点を適切に配分し評価する。学期末において，観点ごとの総括的評価を行う。					
二 学 期	ア 日本語ワードプロセッサの利用 イ 表計算ソフトの利用	9	・ 検定試験に向けての実技演習を行います。 ・ 表計算ソフトの特徴と機能を理解します。 ・ 表計算ソフトの利用方法を身につけます	全商ビジネス文書 実務検定(3 級)	中 間 考 査 期 末 考 査
		10			
		11			
		12			
【課題・提出物等】 配布プリント，実技の印刷物，ノート					
【2学期の評価方法】 1 毎時間の学習時間への取り組む態度，検定試験に向けての実技の成果，課題の提出状況と定期考査等の成績などで評価します。 ※学習内容に応じて，それぞれの観点を適切に配分し評価する。学期末において，観点ごとの総括的評価を行う。					

三 学 期	ウ プレゼンテーションソフト の利用	1	・プレゼンテーションソフトウ ェアの基本操作を理解します。	学 年 末 考 査
		2	・学校紹介プレゼンを作成しま す。	
		3		
	【課題・提出物等】 配布プリント，実技の印刷物，ノート			
	【三学期の評価方法】 1 毎時間の学習時間への取り組む態度や課題の提出状況と定期考査等の成績や小テストな どで評価します。 ※学習内容に応じて，それぞれの観点を適切に配分し評価する。学期末において，観点ごとの総括的評価を行う。			
【年間の学習状況からの評価方法】 ※各学期末における観点別評価を基に，それを総合して学年末に5段階の評定にまとめる。				

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

学習状況を、「知識・技術」，「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。

評価の観点及び内容		評価方法
知識・技能	農業情報処理の基本的な知識と基礎的な技術を身につけている。	学習活動の取組，毎時間のファイル提出 定期考査
思考・判断・表現	基本的な操作や技術を理解して，それらを状況に応じて創造的に考えて，利用・表現できる。	学習活動の取組，毎時間のファイル提出 定期考査
主体的に学習に取り組む態度	ワープロや表計算，プレゼンテーションソフトの学んだ技術を総合的に活用するとともに，資格取得などに主体的に取り組んでいる。	学習活動の取組 資格取得
【観点別学習状況の評価】 「十分満足できる」状況と判断されるもの……………A 「おおむね満足できる」状況と判断されるもの……………B 「努力を要する」状況と判断されるもの……………C		

3 担当者からのメッセージ

確かな学力を身に付けるためのアドバイス	① 積極的に取り組みましょう ② 資格取得に向けて放課後なども自主的にチャレンジしよう。 ③ 授業をしっかり聞き，重要な文章には赤線を引く。 ④ 分からないところはそのままにせず，先生に聞きにくる。
授業を受けるに当たって守ってほしい事項	① 座学では始まりのチャイムで着席しておくこと。 ② 積極的に発言すること。 ③ 実技では，先生の注意や指示を厳守すること。 ④ 服装は正しく着用すること。
その他	① 様々なソフトウェアの基本的な技術を主体的に学び，活用できるようにしよう。また，資格取得にも積極的に参加しよう。 ② 情報モラルやセキュリティを十分に理解し，社会における情報を正しく活用できるようにしよう。